

朝の礼拝

聖書 コリントの信徒への手紙 I 3章 10-17節 (新約聖書 302頁)

10 わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。そして、他の人がその上に家を建てています。ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。11 イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。12 この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、わらで家を建てる場合、13 おのおのの仕事は明るみに出されます。かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。14 だれかがその土台の上に建てた仕事が残れば、その人は報いを受けますが、15 燃え尽きてしまえば、損害を受けます。ただ、その人は、火の中をくぐり抜けて来た者のように、救われます。16 あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。17 神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。

家を建てる

先週は文化祭がありました。英和の文化は礼拝に象徴されるようにキリスト教の精神による女子教育です。イエス・キリストを土台とした学校です。皆さんはその土台の上に、英和の教育を通して、あなたがた一人一人の人生という家を建てていることになります。

家を建てるというのは面白いたとえです。家というのは材料や技術によって生活を豊かにするものです。これは一般には「文明」と呼びます。でもパウロは心を豊かにする人生の土台としてイエス・キリストの大切さを伝えているのです。これは一般には「文化」と呼ぶものです。

現代はグローバル社会と呼ばれています。それはモノ、カネ、情報など、どんな社会でも便利な、どこでも使えて意味のある「文明」を指します。では人の心についてはどうでしょうか。子どもの貧困、いじめ、女性差別、ヘイトスピーチ、難民移民の排除など残念なことがたくさんあります。人の心の豊かさを指すはずの「文化」に課題があるようです。

私は英和の文化祭、英和祭でとても感動して、嬉しかったことがあります。皆さんが努力して、協力して、多くの方々をお迎えできたことはもちろんですが、さらに嬉しかったことがあります。それは皆さんが自分自身を大切にしていると感じたからです。私はそんなあなたがたを誇りに思うと共に尊敬しています。ぜひこれからも心の豊かな人生という家を建てられるように祈っています。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたはわたしたち英和の土台となって、わたしたち一人一人がその土台の上に家を建てているのをご覧になっています。どうか、今日一日も一切をあなたに委ね、御心に適う道を歩ませて下さい。

今、様々な理由によって就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうか主の慈愛を悟り、主の御前で共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与え下さい。主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン